



小学1年生にタッチペンを寄付

8月24日、市役所で、伊万里ケーブルテレビジョン株式会社からタブレット学習用タッチペン360本の贈呈がありました。これは、同社の創立60周年記念事業の一環として、未来を担う子どもたちのICT教育に役立ててもらおうと寄付されたものです。

タッチペンは、小さな子どもでも握りやすい鉛筆のような六角形で、画面に触れるペン先には柔らかい素材が使われています。贈呈されたタッチペンは、市内の小学1年生に配付され、タブレットを使った学習に活用されます。



タブレット学習用タッチペンを贈呈した伊万里ケーブルテレビジョン(株)の皆さんと市関係者



受け継がれる支え合い

問合先 暮らしづくり課男女協働・婚活応援係 (HP ☎ 23-2115)

100歳を迎えた知り合いの女性から、これまでの人生について話を伺う機会がありました。

女性は若い頃、長男夫婦を相次いで亡くし、夫と二人で幼い孫を育てることになりました。不安を抱える女性に、夫は「よかよか。二人で頑張れば何とかなる。大丈夫たい」と笑顔で声をかけ、畑仕事の傍ら、家事や子育ても一緒に担ってくれたそうです。

当時は「男は仕事、女は家庭」という考え方が強く、周囲から珍しがられることもありましたが、それでも夫は「助け合うことが家族たい。これは、自分の大事な役割たい」と話していたといいます。

そして今、女性は台所で皿を洗い、共働きの両親を手伝う小学生のひ孫に、かつての夫の姿を重ねています。

家事や育児を誰か一人が担うのではなく、家族みんなで支え合う。その思いやりの心が、時代を超えて受け継がれているのを感じました。

伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員

郷土の文化財

問合先 生涯学習課文化財係 (☎ 22-1262)

遺跡余話 古墳時代 伊万里湾の攻防 その5

前回紹介した小島古墳が造られてから約40年後(6世紀末)に、^{ぜにがめ}銭亀古墳(東山代町日尾)が造られました。現在は工業団地の造成により消滅しています。地元ではこの古墳について「畑を耕すと下に大きな石があり、それに触ると発熱などのさわりがある」と言われていました。

昭和46年(1971年)に調査団による調査が行われ、直径約15m、高さ約5mの円墳と推定されました。また、墳丘の裾の部分には石が並べられていました。埋葬施設として横穴式の石室があり、内部からはヒスイ製や、めのう製、碧玉製の勾玉、碧玉製の^{くだたま}管玉、さらにガラス製の玉などの装飾品のほか、鉄製の刀や^{やじり}鏃、^{すえき}須恵器と呼ばれるお供え用の器など、数多くの副葬品が出土しました。

これまで説明してきた李路寺古墳、夏崎古墳、小島古墳は、大和政権など畿内との強い繋がりがあって考えられています。一方、この銭亀古墳は、規模や副葬品の内容から、畿内との関係よりも、地元の民衆の中から農業や手工業の発展により台頭した家族による、家族墓的な意味合いが強い古墳であると考えられています。



銭亀古墳出土の装飾品